

令和7年度 数学科 授業改善推進プラン

台東区立駒形中学校

	児童・生徒の実態を踏まえた課題	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
第1学年	- 授業では、板書を書き写すことが難しい生徒や、計算式を適切に表現することが難しい生徒がいる。総じて習熟度の差が大きい。 - 学習内容を定着させることに課題がある。	- 小数や分数を含む四則の計算の仕方を理解し、正しく計算することができる。 - 与えられた図や資料から代表値を読み取ることができる。 - 反比例についての表を読み取り、表にあてはまる数を求めることができる。 - 学習内容を定着させるために、自ら復習に取り組む主体性を身に付ける。 - 苦手意識のある問題に対して粘り強く解決しようとする意欲を身に付ける。	- 小学校の学習内容のつまづきを解消するために、単元導入時に振り返りを行う。 - I C T機器や掲示物を用いて具体的な例を示し、分かりやすい言葉で丁寧に説明する。 - 少人数指導を生かして、個に応じた学びの最適化を図る。例えば、問題演習時に学びあいの時間を設ける。生徒が発表しやすい雰囲気をつくる。 - 書く力を身に付けさせる指導を継続する一方で、書くことに課題がある生徒にはI C Tを併用し学習内容の記録と振り返りをさせる。 - 基礎的な計算力を身に付けさせるため、定期考査とは別に計算コンテストを実施する。 - 駒中スタディ（朝学習と週末課題）を計画的に実施していく。
第2学年	- 学習に対する意欲、取り組み方など、個人差が大きく、習熟度の差が大きい。 - 授業内では理解でき、解くことができた課題も、家庭学習や復習をする習慣がない生徒が多く、学習内容が定着しない生徒が少なくない。 - 年度当初から学習内容の定着のために、ノート工夫を指導してきたが、学習内容を振り返ることのできるノート作りができていない生徒はごく少数にとどまっている。	- 数量や図形などについて、基礎的・基本的な概念や性質などを理解し、日常的な事象を数学的に処理する技能を身に付ける。 - 日常に事象を数学的に捉え、基礎的・基本的な数量や図形など性質を見出し考査する力、数学的な表現を用いて事象を的確に目的に応じて表したりする力を身に付ける。 - 数学的活動の楽しさや数学の良さを実感しながら粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする力を付ける。	- 生徒の希望による少人数クラスでの授業を行い、スタンダードクラスでは、基礎基本の定着を図り、教科書の章の問題Aを解くことができる力の育成を図り、アドバンスクラスでは、基礎から発展的課題にも取り組み、解決できる力の育成を図る。 - 学習内容の定着を確認する小テストを実施し、基礎の定着を図るとともに、できることの達成感を得させ、学習意欲の向上につなげる。
第3学年	- 計算の正確性や図形に関する基本的な用語の理解に課題がある。 - 既習事項を組み合わせ問題で解決する応用問題や、複数の情報を整理して自分の考えを説明する問題に課題がある。 - 与えられた課題をこなすことに留まり、自ら発展的な学習に取り組む生徒が少ない。	- 中学校で学習する数学の概念や原理・法則を正確に理解し、習得すること。 - 与えられた情報を正確に読み取り、数学的な見方や考え方に基いて問題を分析し、解決できる力を身に付ける。 - 数学の学習に粘り強く取り組み、困難な問題にも挑戦しようとする意欲を醸成する。	- 単元ごとに生徒の理解度に応じた少人数グループを編成し、基礎の徹底を図るグループと、応用・発展的な内容に取り組むグループに分けて指導を行う。 - 小テストをこまめに実施し、生徒の理解度を把握し、確実に知識・技能が定着するまで支援をする。